

広報クイズ 6

毎月たくさんのご応募あり
ありがとうございます。今回のク
イズから、県立自然科学館の
ご厚意により、招待券もプレ
ゼント。どしどし応募してく

ださい。

8月号のクイズの正解は、
①-A、②-A、③-Aでし
た。応募総数30通、そのうち
全問正解は29通でした。

【今月の問題】

- ① 盛況だった大相撲白根場所。
横綱が付ける化粧まわしと綱
の重さは、合わせて何キロ?
(ヒント=7ページ)
④7キロ ⑤10キロ
③15キロ
- ② 水道町吉崎さん宅に出没す
る動物は?

- (ヒント=11ページ)
④タヌキ ⑤イタチ
③キツネ
③ 新飯田小ふるさとキャンプ
で作った昔懐かしい遊具は?
(ヒント=11ページ)
④竹トンボ ⑤カンげた
③紙ヒコーキ

【応募の方法】

はがきに答えの記号(例①
-A)、住所、氏名、年齢を
書いて送ってください。全問
正解者の中から抽選で5人に
500円の図書券を、3人に県
立自然科学館の招待券をペア
で差し上げます。
あて先=〒950-12 白根市

大字白根1235 白根市役所
広報クイズ係
締め切り=9月20日(水)
必着
抽選=9月21日(木)に市
役所に来た人をお願いします。
発表=10月1日号

当選おめでとう! 8月の 広報クイズ

- ▶小林貴子さん(一の町・9歳)
- ▶斉藤穂積さん(大字七軒・9歳)
- ▶平野智子さん(大字能登・14歳)
- ▶長谷部明葉さん(南新町・6歳)
- ▶山田裕幸さん(古川・2歳)

8月22日(火)に市役所に来られた関根克司
さんから抽選していただきました。

はがきで キャッチボール

啓 広報係の皆さん、ほん
とうに御苦労さまです。
我々、中学生の生徒には「休
み」という言葉は一つもありま
せん。なぜならば、怖い怖いテ
ストに縛られているから、いつ
も片手に「必勝対策号」を持ち、
頭をたたきながら、考えている
のです。

上大郷 渋谷伸一
テストの勉強の合間に「広報
しろね」を読む。これもた
いせつな学習です。「勉強は人
のためにするンネンだ。みんな
自分の身に付くんだ」と、
親がいつも言っていました。そ

の言葉で、実感がこもってま
したよ。
テストの点数で人間を測るこ
とはできないけれど、それが人
生の一つの試練であることは確
かなようです。
がんばれ、中学生諸君。

休み特別プレゼント入場券
ありがとうございました。
さっそく出かけてきました。星
空もひさしぶりに仰ぎ、楽しか
ったです。
大通一 青木きよ子

科学館は、とてもにぎわって
たようです。プラネタリウムは
夢があつて、私も大好きな場所
です。つい、上のまぶたと下の
まぶたが仲よくなつてしまいま
すが。。

報しろねに一口メモや豆知
識なるものを掲載してい
たくと、よりいっそう楽しくな
ると思います。
朝捲 小島ノリ

んな豆知識がいいかな?
ただ、現在の編集内容が広
報スタッフの頭脳の極限。少し
ゆとりができるまでお待ちを。

市民談話室

原稿募集

10月1日号の原稿を募集します。皆さんが
日ごろ考えていることや身近な出来事など、
気軽に投稿してください。字数は400字から
500字程度とします。あて先は、〒950-12
白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整
課 広報広聴係(☎373-2111⑨333)です。

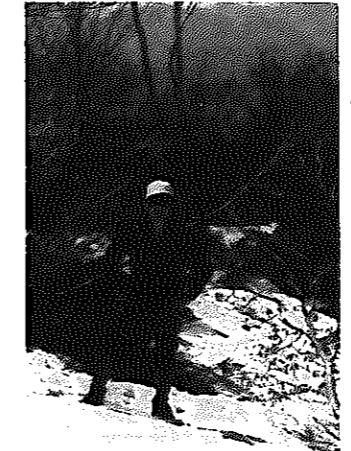
五月の連休、我が家では山登
りを計画しました。山が大好き
で、昔は山男だった主人に誘わ
れて、私もすっかり乗り気にな
りました。しかし、せひ娘たち
を連れて行きたいという父親の
意志とはうらはらに、高校生の
娘二人、小学五年の娘は、さら
さらいっしょに行く気はなく、
誘っても誘っても断られたので
す。それでも、あの苦労して登
った後のそう快な気分と、山々
のすばらしい眺めを見せたい一
心で粘り、ようやく、しぶしぶ
の返事を得ました。

当日は天候にも恵まれ、下田
村の登山道から入りました。最
初から私たち二人に差をつけ、



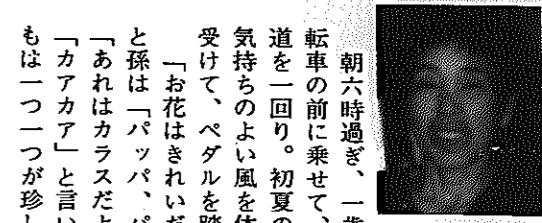
中野直子さん(下赤浜・保母・四十二歳)
家族で山登り

元気に登っていく娘たち。「こ
んには」と山仲間にあいさつ
をしたり、少し危険な箇所では
「だいじょうぶ?」ほら、しっか
り」と私たちをかばってくれ、うれ
しくなりました。娘たちも、一
歩一歩自分の足で耐えて頂上に
達する喜びを実感した様子でし
た。頂上にはまだたくさん雪が



▲残雪の栗ヶ岳

あり、シートで滑ったり雪合戦
をしたり。。
はるか下界を見下ろしながら
お金では買えないぜいたくな気
分を味わいました。山登りをす
ることで、長い人生の忍耐力を
養うこともできるのではないで
しょうか。私も体力の続くかぎ
り、これからも挑戦したいと思
います。

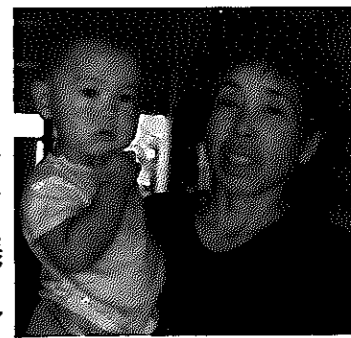


孫とついでに
すなおな心を忘れず
生野シズイさん(中小見・農業者・五十八歳)

朝六時過ぎ、一歳半の孫を自
転車の前に乗せて、朝の田んぼ
道を一回り。初夏のよく晴れた
気持ちのよい風を体いっぱい
受けて、ペダルを踏みみます。
「お花はきれいだな」と言う
と孫は「パッパ、パッパ」と、
「あれはカラスだよ」と言うと
「カアカア」と言います。子ど
もは一つ一つが珍しく、すなお

すなおでいるというのは、な
かなか難しいものです。まず、
相手のことを理解しようとい
う姿勢が、たいせつなように思
います。人は、とかく頭から批判
してしまったり、自分の経験だ
けで考えがちです。けれど、人

それぞれに環境も違うし、経験
も違う。また考え方も違います。
それが分かっていなくてもいい
でも、なかなかすなおに受け入
れられないことが多いのかもしれ
ません。
こんなことに心がけて、この
かわい孫に迷惑を掛けないよ
うな年寄りになりたいなと思
っています。



お孫さんをだっこする生野さん

市民文芸

短歌

絮雲に姉を想いて手を翳さん
無垢の心を我に刻みて
フツフツと茄子挽ぐ音の心地良き
腰までも濡れ早朝の畑
中村 京

ピンク劇終りたりしか湯のまちの
語りつつ行く下駄ばきの客
小出熊四郎

いつの日か新幹線を降り忘れ
鳴り出すおけいまだ忘れず
小出よしの

俳句

五月閑寒水溜めし寝太し
木村 トリ

荒庭しきし夏炉の暗かりし
堀内ナナ子

上段の間の梅雨じめりいちじるし
成沢 素明

干草の香りの中を歩きけり
猪股 南魚

梅雨節奇政もありしかと思う
山田 孝

連なりし蔵の戸開き梅雨晴間
金田 イト

夏木立三百年の大庄屋
細貝 淡子

川柳

無人駅ほおずき赤く客を待つ
玉木 長吉

友が吹く笛にいつしか踊らされ
山岡 フミ

失って初めて分かる宝物
吉川 彰

キュービットにハイミス袖の下渡す
米野 光雄

母を恋う日の日向葵がこっち向く
今井 七郎

リハビリの友の背にある千羽鶴
織田 セツ

あげ足を取られた亡妻に香を焚く
竹石 甚五

ペテン師がよろけて渡る法の橋
後藤マサノ

心にも杖欲しくなる老齡期
佐藤トミノ

御厚意の席さわやかな風が吹く
佐藤 ヨキ

行き止まりばかりへ失意の足が向く
高橋祐四雄

汚れる目を方緑で洗っている
田中 成子

泥んこの遊びに期待する未来
田村 恒夫

公選されたか子女にする序幕
中村 尚治

人肌の温みがほしい紙おむつ
西条 ムラ

伝言を持って一杯酌むつもり
早川 英男